

富士市中小企業景況調査結果

令和7年度 第2四半期【令和7年7月～9月】

令和7年9月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、199事業所(回収率60.3%)を対象に、「令和7年7月～9月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた
値。

前期…令和7年4月～6月 今期…令和7年7月～9月 来期…令和7年10月～12月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲15.4	→	▲19.2 (▲11.6)	→	▲15.1
売上	▲3.1	→	▲7.4 (▲7.2)	↗	2.1
採算	▲22.3	→	▲24.5 (▲14.2)	↗	▲19.3

今期調査では、全産業合計の業況DIが-3.8ポイントの減少、売上DI-4.3ポイントの減少、採算DI-2.2ポイントの減少となった。来期の予測については、業況は横ばい、売上・採算は改善の予想となった。業種別の来期業況DIは、製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業は横ばい、サービス業は下降を予想。売上DIは製造業・卸売業・サービス業は上昇、小売業は横ばい、建設業は下降を予想。採算DIは製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業・サービス業は下降を予想。

全体を通して、物価高騰の影響と人手不足に関するコメントが多かった。日産関連やトランプ関税に関するコメントが目立った。

経営上の問題点では、製造業では「設備老朽化」、建設業では「人材不足」、卸売業・小売業では「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、サービス業では「人件費高騰」がそれぞれ一位になった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 卸売業・建設業は上昇、小売業は横ばい、製造業・サービス業は下降。

来期は製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業は横ばい、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲21.6	↘	▲29.6 (▲19.4)	↗	▲14.8
建設業	▲10.8	↗	0.0 (4.0)	→	0.0
卸売業	▲15.0	↗	▲7.7 (▲14.3)	↗	0.0
小売業	▲23.5	→	▲26.6 (▲26.6)	↗	▲20.0
サービス業	▲7.1	↘	▲26.3 (▲4.5)	↘	▲36.9
全産業	▲15.4	→	▲19.2 (▲11.6)	→	▲15.1

〔売上高のDI〕 建設業・小売業は上昇、製造業は横ばい、卸売業・サービス業は下降。

来期は製造業・卸売業・サービス業は上昇、小売業は横ばい、建設業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲11.2	→	▲14.8 (▲16.7)	↗	0.0
建設業	0.0	↗	20.0 (0.0)	↘	5.0
卸売業	25.0	↘	▲30.8 (0.0)	↗	25.0
小売業	▲35.3	↗	0.0 (▲26.7)	→	0.0
サービス業	3.5	↘	▲15.7 (9.6)	↗	▲10.5
全産業	▲3.1	→	▲7.4 (▲7.2)	↗	2.1

〔採算のDI〕 建設業は上昇、卸売業は横ばい、製造業・小売業・サービス業は下降。

来期は製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業・サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲18.9	↘	▲37.1 (▲22.2)	↗	▲18.5
建設業	▲32.1	↗	0.0 (▲8.0)	↘	▲5.0
卸売業	▲30.0	→	▲30.8 (▲7.1)	↗	▲25.0
小売業	▲17.6	↘	▲26.6 (▲40.0)	↗	▲13.4
サービス業	▲14.2	↘	▲26.3 (4.6)	↘	▲36.9
全産業	▲22.3	→	▲24.5 (▲14.2)	↗	▲19.3

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「家庭紙では暑さが続いている影響もあり商品の流れが低調である。生産調整している状況である。PPC用紙も低調である」「トイレ用紙の長尺化や少ロール、幅狭化といった多様化が進んでいる中、品質維持および安定供給を実現するための適切な価格転嫁が必要」「PPC用紙はペーパーレスの影響を受けている。家庭紙はインバウンド等により販売は好調であるが、供給過多の状況にあると考えられる」「値上げ交渉が難航している。あらゆる物の値上げや人件費の高騰など、製品価格に転嫁したいが、注文が他社に移る恐れがあるため、対応が非常に困難である」「10月1日から大手メーカー各社が段ボールの原紙や製品の値上げを発表しており、影響を受ける。2022年以降4度目の値上げで、このように短期間のうちに複数回の値上げは過去初めてのことで、上げ幅が大きく、大変戸惑っている。経営合理化やコスト削減では吸収しきれないが、コスト増加分を全額転嫁すれば顧客は他社に流れてしまうので、上げ幅や交渉開始時期の判断が難しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「国内需要については、将来的には低下が予想される」「退職者が増加しており、人員の確保が困難となっている。また、人材の質の低下が懸念される」「秋口でも高い気温が続いているが、それを過ぎれば通常に戻る見通し。PPC用紙もある程度は回復する」「価格改定の度に交渉は難航し、競合他社との価格競争に巻き込まれ、注文が減少したり利益率が低下したりと経営が苦しくなる。最低賃金の改定で労務費も上がり、業況は厳しくなる一方だろう」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「自動車部品については落ち込みが大きい、関税15%が決まり、輸出も徐々に活発化してくると思うがN社の動向が気にかかる」「工作機械・一般機械部品については大きな落ち込みはないが、勝ち組と負け組との格差が段々と表われてくると不安になる」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「不安定な世界情勢の影響があらゆる面で生じており、今後も業況悪化への懸念を抱いている」「自動車関係に携わる製造業は、仕事が減少傾向なので、受注確保が厳しい状況」「自動車業界が相変わらず低迷が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自動車以外の仕事が順調に受注できているため、自動車関係の落ち込みをカバーできている」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「関税の影響よりも労務費を抑えたいメーカーが生産を海外へシフトしている。今まで以上に厳しい局面となりそうである」「今期はキャパ以上の仕事量をこなしていたが、山を越えたとみられる。来期は生産減が見込まれるが、激しい落ち込みは無いと思われる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「この下期は国内自動車メーカーから新車種の投入がない為、自動車関係の設備メーカーはどこも仕事が薄いと考えている」「来季に入って新車種の投入が始まれば設備需要は回復すると思われるが、アメリカの自動車関税の問題もあり、日本国内への投資がどのようになるのかは不透明」とのコメントが寄せられた。

『電子機器』…「当社製品と比較して、安価な製品が市場に増えてきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自動点呼解禁により、当社製品の需要増が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『**衣料・繊維加工**』…「外注先の値上げ要求に応じてはいるが、その分の価格転嫁は厳しい」
「6月末に同業者1社の廃業が決定した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「受注は昨年同様に推移する見通しであり、利益確保が当面の課題となる」「同業者の廃業がここ2～3年目立ってきている。平成初期には市内に17社の同業者がいたが、令和7年6月時点では6社まで減少している」とのコメントが寄せられた。

『**食品・飲料**』…「原料高と経費増大により商品価格が上昇。売価が上昇すると消費量（購売量）が低下する。この状況は今後も続くと考えている」「原料価格の上昇」「原材料の不足や価格高騰により、減産や生産できない商品が発生している状態が続いている」「繁忙期に向け、売上は多少上昇すると思われる。人手不足が大きな課題」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「原料高と経費増大により商品価格が上昇。売価が上昇すると消費量（購売量）が低下する。この状況はこれからも続くと考えている」「原料価格の上昇」「原材料の不足や価格高騰により、減産や生産できない商品が発生している状態が続いている」「繁忙期に向け、売上は多少上昇すると思われる。人手不足が大きな課題」「富士市の自動車関係は厳しさを増すだろう」「ライフワークで自社の観光施設的な場所を作っている。来年の3月にはテラス等が完成予定」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	14.8	40.7	44.4	▲29.6	上昇
売上高	25.9	33.3	40.7	▲14.8	上昇
採算	14.8	33.3	51.9	▲37.1	上昇

〔建設業〕 景気ムード…【低調】

『**総合建設**』…「都心部の再開発やインフラ整備、半導体工場や自動車産業の設備投資の需要が堅調で、市場は回復し拡大傾向にある。その反面資材価格の高騰や慢性的な人材不足が深刻化している。工事費用は増加しており、生産性の向上が急務となっている。各企業はDXの活用と推進による効率化が求められていく」「建設費高騰による発注者の設備投資意欲の鈍化が目立つ」「建設業界の景気を下支える公共工事の受注が伸び悩んでいる。少ない工事の取り合い傾向が強まっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「やはり、都心部でのインフラ整備及び再開発が続く一方で、住宅需要は減少している。需要については二極化すると思われる。そこでの課題は、人手不足とコストの増大です。これをいかに解決し、他者との、差別化を進められるかがカギとなる。業界も勝ち組と負け組に分かれる状況が出ると思われる」「物価高や人件費増の流れは変わらないので、経営における利益確保の課題がますます重くのしかかる」とのコメントが寄せられた。

『**建設関連（資材・解体・建設車両等）**』…「首都圏での工事が一段落した感があり、昨年程の盛り上がりには欠ける。低迷とも底堅いとも言えないが、どちらかと言えば悪い状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「不透明感が強い。明らかに良いという兆候も、極めて悪いという兆しもなく、心理的ムードが上がってこない。関税引き上げ等、外部要因も厳しい。自民党総裁選の結果で、経済活性化への期待が高まってくればよい」とのコメントが寄せられた。

『**一般住宅**』…「資材の価格上昇が止まらない為、原価アップとなるものの売価に転嫁できず、利益を出しにくい状況である。今後もこの状況は続くだろう」「物価高でどのくらい需

要がさがるのか、予想がつかない」「大型ではなく中型の工事増になるかもしれない」とのコメントが寄せられた。

『**設備工事**』…「公共工事の減少による売上減少、材料仕入れ価格の上昇、交通費や宿泊費の上昇、人件費高騰と建設現場は非常に苦しい」「景気が停滞気味 起爆剤が欲しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「過当競争と競争力の低下で、見通しは厳しい」「良くならない。材料費、人件費の高騰に伴い、価格競争が過当になる」「地道な受注活動を続ける」とのコメントが寄せられた。

『**造園土木**』…「夏は庭木の手入れ、草刈りで忙しかった」「公共工事の入札が何もない」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「地元の工務店で倒産が発生し始めた。厳しい経営環境で倒産する工務店が増える可能性がある」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	5.0	90.0	5.0	0.0	横ばい
売上高	35.0	50.0	15.0	20.0	下 降
採 算	10.0	80.0	10.0	0.0	下 降

【卸 売 業】 景気ムード…【 低 調 】

『**金属部品**』…「あまり活発に動く時期ではないため、受注ストックを消化していると思われる」「業界全体的に売上が減退し始めているが、顕著に表れているところまでではない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現在の景気は下降局面にあると考えられ、新たな設備投資には慎重な姿勢が見られるが、力のある企業は次のステップアップに向けた投資準備を進めていると予想している。新たな投資効果が現れるには年単位の計画が必要であるため、景気は当面横ばいで推移すると見ている」「現在受注しているメーカーの生産が終了した場合、次の受注が不確実である。一社傾注の業者や小規模業者から商圏奪取を目的とした攻勢が散見されており、特に規格品については価格競争による採算悪化が懸念される」とのコメントが寄せられた。

『**建築資材**』…「全国各地を回る仕入先からは、どこも景気が悪そうだと言っている。弊社は10月から年末にかけては忙しくなりそうだが、引き続き受注に向けた努力をしていきたい」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…「慢性的な人員不足による稼働率低下。競争力のある商品へ選択と集中の動きが出てきそうである」とのコメントが寄せられた。

『**機械器具**』…「機械商社の業界は良くもなく悪くもなく、まあまあな状況である。各社の得意先の業況に左右されやすいので悪化している会社もあるようだ。仕入の値上げが継続的に発生しており、得意先も納得してくれるケースが多いが100%認めてもらえないケースもある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「アメリカ関税、ウクライナやイスラエルの紛争等、不安定な状況は変わらないため見通しは不透明である。株価の異常さが不気味に感じる」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…「製紙原料業界では、部門ごとの縮小傾向、業界の統合傾向、販売競争の激化が進み、取り残された弱者の廃業が進んでいる」「依然として古紙は減少しており、生産も活発ではない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「製紙会社を起点とし、加工業界、そして製紙原料業界で統合再編が始まる。業界全体の取扱量を維持するため、資源回収分野の裾野を広げることが求められており、他分野から参入する企業と、産廃業界に手を伸ばす企業との住み分けが進むであろう」「今後も産業古紙の発展は見込めず、生き残るのは困難である。現状のままではとても生き残れず、得策も見つからぬまま日々が過ぎ、将来に希望が持てず気持ちが沈む一方である」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…「米中貿易協定の進展より、景気敏感の非鉄金属に買いが入り、銅を中心に高値、スクラップも連動している。鉄鋼製品は建設向け需要の縮小で相場下落が続き、市況の実勢に合わさって、価格を下げ底入れを図る。鉄スクラップも発生減と夏場の作業低下に依り、価格安定し、上昇気味である」「国内の鉄鋼製品需要及び海外の製品需要減により生産減に入り、価格下落に入った。ただ国内スクラップ発生減により生産とのバランスが取れている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「最大消費国の中国での需要回復が、価格の下支えしている」「鉄鋼需要減は世界的に進行する中、日本もプラス要因なし」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「米国関税問題により、自動車関連、部品等の下請けの動揺が大きい」「中国系の非合法業者が増加している」「静岡県を牽引してきた西部があまり良くないようだ」「日本の高齢化率（65歳以上）が29.3%、静岡県は31.2%というデータが紹介されていた。約3人に1人が65歳以上ということになる。商売、経営、病院、エンタメなど様々なことがこの人口の割合に合わせて変わっていくことになると思う」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	15.4	61.5	23.1	▲7.7	上昇
売上高	7.7	53.8	38.5	▲30.8	上昇
採算	7.7	53.8	38.5	▲30.8	上昇

【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『日用品・雑貨』…「同業者が減って、組合がなくなり、情報が入りにくい」「人件費の上昇もあいまって、商品の値上げラッシュである。メーカーの特価在庫処分も多く、状況も厳しい」「主力商材の低迷で大幅な売り上げ減少となっている。また、コロナ禍で好調だった花火は価格の高騰が大きく、購入点数の減少に繋がり、大量に在庫を残す事になってしまった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価が上がり、買い控えも生じて、小売業界は苦しい」「ここ数年、外国人観光客の増加で観光関連商品は好調だが、夏の間は前年比でほぼ横ばいが続いている。登山客は増えても、富士山を市内から眺める外国人観光客がいない事が原因と考えられる。11月以降は期待したい」とのコメントが寄せられた。

『飲料品・食品』…「抹茶ブームにより抹茶に関連した企業は、茶問屋、機械メーカー等、売り止め状態である。茶の原料不足により秋番茶も高値が予想される」「今年は茶業界の大変大きな転換期を迎えている。後継者不足と天候による不良により生産量が減り、加えて抹茶用原料へのシフトにより、ティーバッグの原料やペットボトルの原料になるお茶が不足している。この影響で、価格の上昇が1.5倍以上という現状。仕入れでの価格上昇を販売価格

に転嫁すると3倍の値上げも辞さない状況が続いている。販売レベルでは単純に値上げを実施している店舗も多いが、内容量の調整や仕入れ先を変えて価格維持に努めている。抹茶やティーバッグの需要は増えてきているが、上級茶やリーフでの需要は伸び悩んでいる。「猛暑酷暑による天候不順により、需要低下しているが、今後の回復を期す」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「世界的な抹茶需要が発端となり相場が荒れている現状があと2年は続くという見通しがある。来年の業界の最大商戦である新茶時期にも影響があり、原料不足による値上げが予想されている。弊社としても抹茶ブームを活用した新商品の開発や、抹茶販売に注力しつつ従来の上級茶しか味わえない価値を伝え続けたい」「天候による農作物の出来により、市場に与える影響が出て欲しくない」「人件費の高騰による利益の減少が心配。値上げの準備をしているがお客様に受け入れられるか心配」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「価格高騰は落ち着いてきたが、それでも微増傾向。需要が落ちているので、メーカーも問屋も小売も、全体的に景気が悪い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「しばらくは同じような状況が続くのではないだろうか」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「高温障害や高齢化で品物不足で高値の仕入れになるが、販売価格に転嫁出来ない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「夏の高温による生産量の減少が予想されて、仕入れが難しい状況が続く」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「業界の動向とは別に、従来の急須を使った丁寧な接客が顧客に喜ばれる販売手法だと改めて実感している。富士山観光に訪れたインバウンド客への対応や、豪華観光列車内でのウェルカムドリンクの提供では、購買率が非常に高い。不特定多数向けのネット販売では得られない効果がある。こうした質の高い接客は、日本茶ファンの獲得と高級煎茶の普及に大きく貢献している。海外輸出やペットボトル商品の展開は大手に任せ、当社は丁寧な接客により日本茶専門店としての価値を高めていきたい」「吉原商店街の理事は昨年かなり若返り、10月の宿場まつり等、活発に行動している」「空き店舗対策では、元気を分けてもらえるような店舗の出店を望んでいる」「先日富士市で開催された自転車イベント“富士グラベル”も無事に終わり、来年は規模を拡大して開催されるとのことで、期待している」「富士駅北口の再開発により、商店街の来訪者が減少していることは否めない」「富士駅北口の再開発に伴い、少しずつ更地になっていく様子をしっかりと目に焼き付けておきたい」「富士の抹茶が紹介されているが、来年以降本格的な富士市産の抹茶商品が展開されていく。また、昨年からはまった豪華列車で提供できる高級煎茶の体験も継続しているので、富士のお茶を発信できる好機だと捉えている」「年末の市長選で市況も盛り上がり欲しい」「今年の春に開催された富士グラベルという自転車イベントが冬にも開催されるらしい。また、伊豆の大仁で営業していた自転車レンタル事業が、富士市のサイクルステーションに移ってきて、施設の規模が拡大された模様」「再開発が始まり人々の足が商店街に向かなくなっている様にも感じる」「アーケードのLED化工事を計画しているが、最近になって制御盤が故障してしまい、対応に苦慮している。ハトやツバメが多く住み着き糞で汚れた箇所も多い。雨漏りも年々酷くなっていてアーケードの維持管理は課題が山積している」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	6.7	60.0	33.3	▲26.6	上 昇
売上高	26.7	46.7	26.7	0.0	横ばい
採 算	6.7	60.0	33.3	26.6	上 昇

【サービス業】 景気ムード…【安定】

『各種食料品』…「原材料費、人件費の上昇が続いており、採算がきびしくなっている」「当店については、カフェコーナーをオープンした5月以降、店の売上が改善されている。カフェコーナーを基点として、地域（アロマガーデン）全体としての集客力を上げ、更に販売機会を増やしていきたい」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「仕事量は増加しているが、人件費および材料費が軒並み上昇している。国の基準に沿ってエコ材料に変更していることもあり、コストが増加している。人材が不足しており、生産体制は厳しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「規模拡大を図りたいが人材確保が難しい」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「求人需要は増加傾向にあるが、雇用のミスマッチが継続的に発生しており、採用難の状況に変化はない。求人商品の過当競争が激化しており、商品単価の低下が続いている。この状況が継続する場合、会社経営に大きな影響を与える」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「物価高騰、人手不足対策に伴う人件費の増加と厳しい状況が続く。構造的な課題への対応が必要」「新商品、販路開拓を積極的にしないと売上が上がらない」とのコメントが寄せられた。

『飲食』…「ファミレス、ファストフード等は売上が伸びている傾向にあるが、その一方で倒産も増加している。シニア層の客足は減っている傾向にある。市場規模としては2019年のコロナ禍前に届いていない。ある程度の回復はしているが、抜本的な解決に向けた対応が必要」とのコメントが寄せられた。

『広告サービス』…「物価高により電気代・燃料代などの経費が増加している。さらにランプ大統領の関税政策に対する不安が広まり、日本経済にも不安定な雰囲気漂っている。当面は経費削減に努めるしかない」「政治の不安定化により中小零細にそのしわ寄せがのしかかっている」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「人口減少と団体利用減少など、需要が低迷している事は周知の事実である。営業区域の問題があり、地域柄インバウンドの仕事も難しい。車両代金など設備投資価格も上昇し経費を圧迫している」「人手不足は喫緊の課題である。一方で、需要が低迷していく中での過剰な雇用にも気をつけなければならない」とのコメントが寄せられた。

『クリーニング』…「資材、人件費の上昇分を価格に転嫁しにくい為、利益の圧縮傾向が強まる」「インバウンドの状況次第ではあるが、ほとんど現状推移と予想している」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「大手の市場参入により競争激化が予想される」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「生産コストは上昇、需要はやや減につき、住宅地供給については業界の動向は厳しい」「在庫が増えている、購入意欲が低下しているのではないだろうか」「分譲地は過剰だと思う。建売住宅業者は分譲地を求めているらしい。高齢化、空き家化、相続後の売却需要が増大し、不動産業界は対応で忙しいと感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「賃上げによる住宅購入者の増加に転じることを期待するが、人口減は変わらず、見通しは良くない。一方、商業地域・工業地域については、一定の需要を保っている。地価上昇（工業地）にも転じており、特に工業地域の割引増は期待できる」「物価高騰など不安材料が依然として解消のメドがたっていない。建設コストへの影響が大きく、土地価格をおさえる傾向が強い」「基準地価は街中で上昇している。郊外の地価が下落していることから二極化が進んでいるような気がする」とのコメントが寄せられた。

『旅館・ホテル』…「スポーツ交流人口の増加により人流は活発化している。イベントも増えており、ここ数年は上昇傾向にある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては

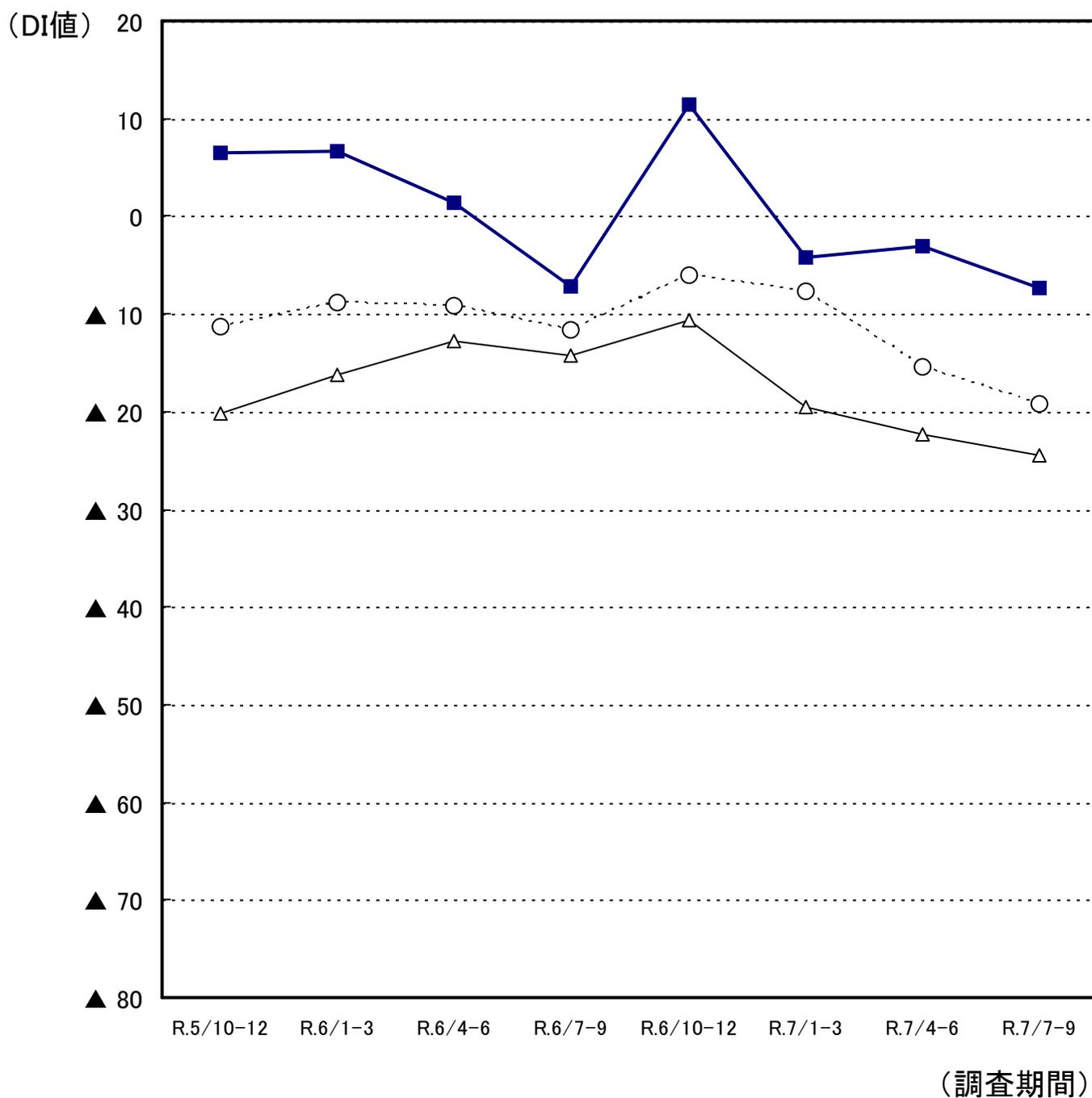
「サッカーワールドカップ、オリンピック、世界選手権などの国際大会での日本人選手の活躍が、全体の士気向上に寄与すると見ている。大リーグの大谷翔平選手の効果も絶大であり、スポーツ文化の進展は今後も続くと考えている」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「工業地の需要の近年の高まりは続いている」「当市以外では宅地価格も上昇しているが、市内は依然として下向気味である」「昔のそろばん学校をリノベして、若者が洋菓子店を開業した」「郊外地では地価が下がって求めやすくなっている一方で所有者が高齢化し亡くなってしまうことから空き家が増えている。相続人が都市圏にいるため片付けが進まず、空き家のままになっている。将来が不安である」とのコメントが寄せられた。

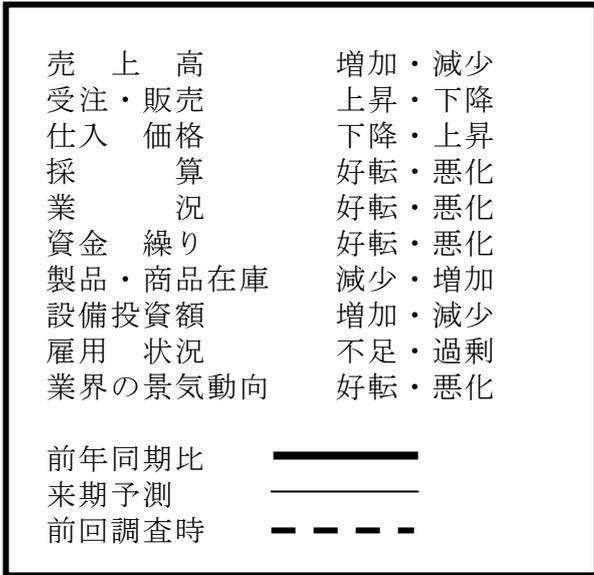
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	10.5	52.6	36.8	▲26.3	下 降
売上高	21.1	42.1	36.8	▲15.7	上 昇
採 算	15.8	42.1	42.1	▲26.3	下 降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

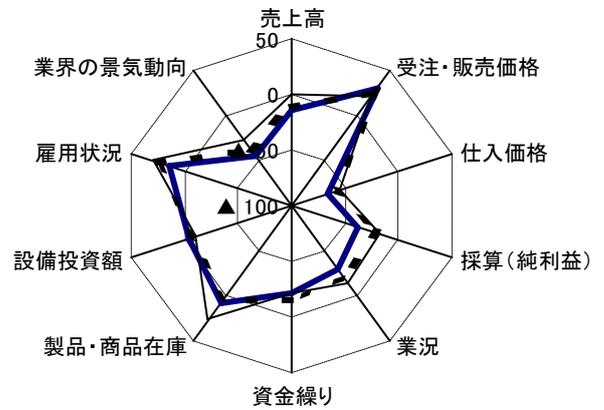
■ 売上 ○ 業況 ▲ 採算



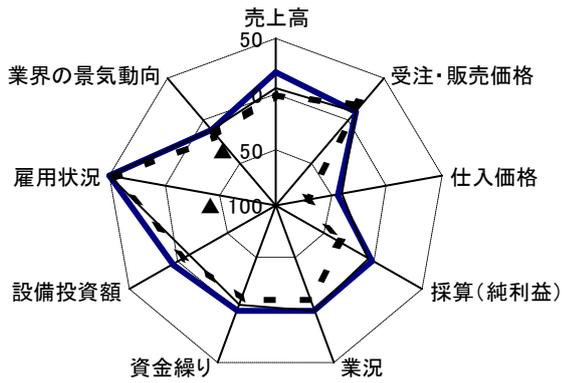
レーダーチャート



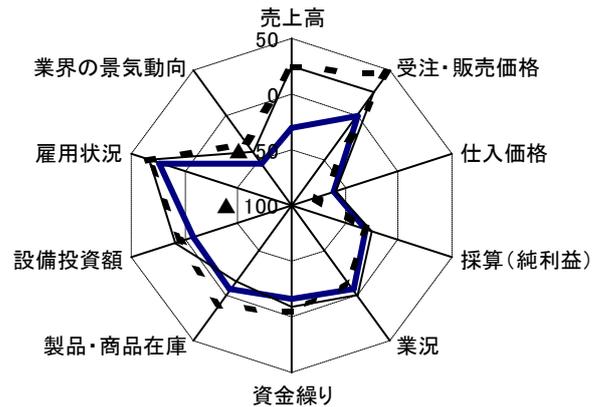
【製造業】



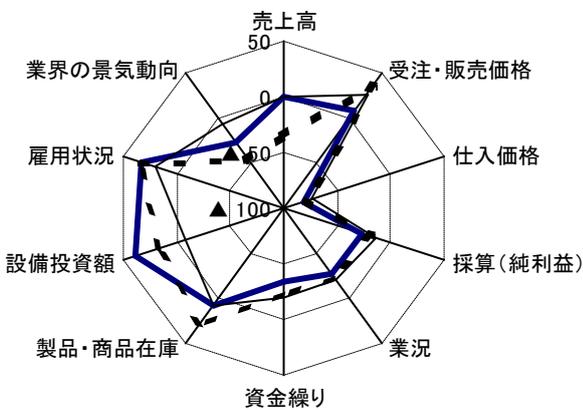
【建設業】



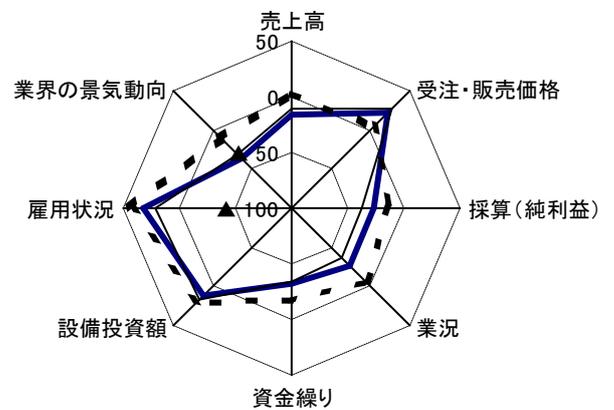
【卸売業】



【小売業】



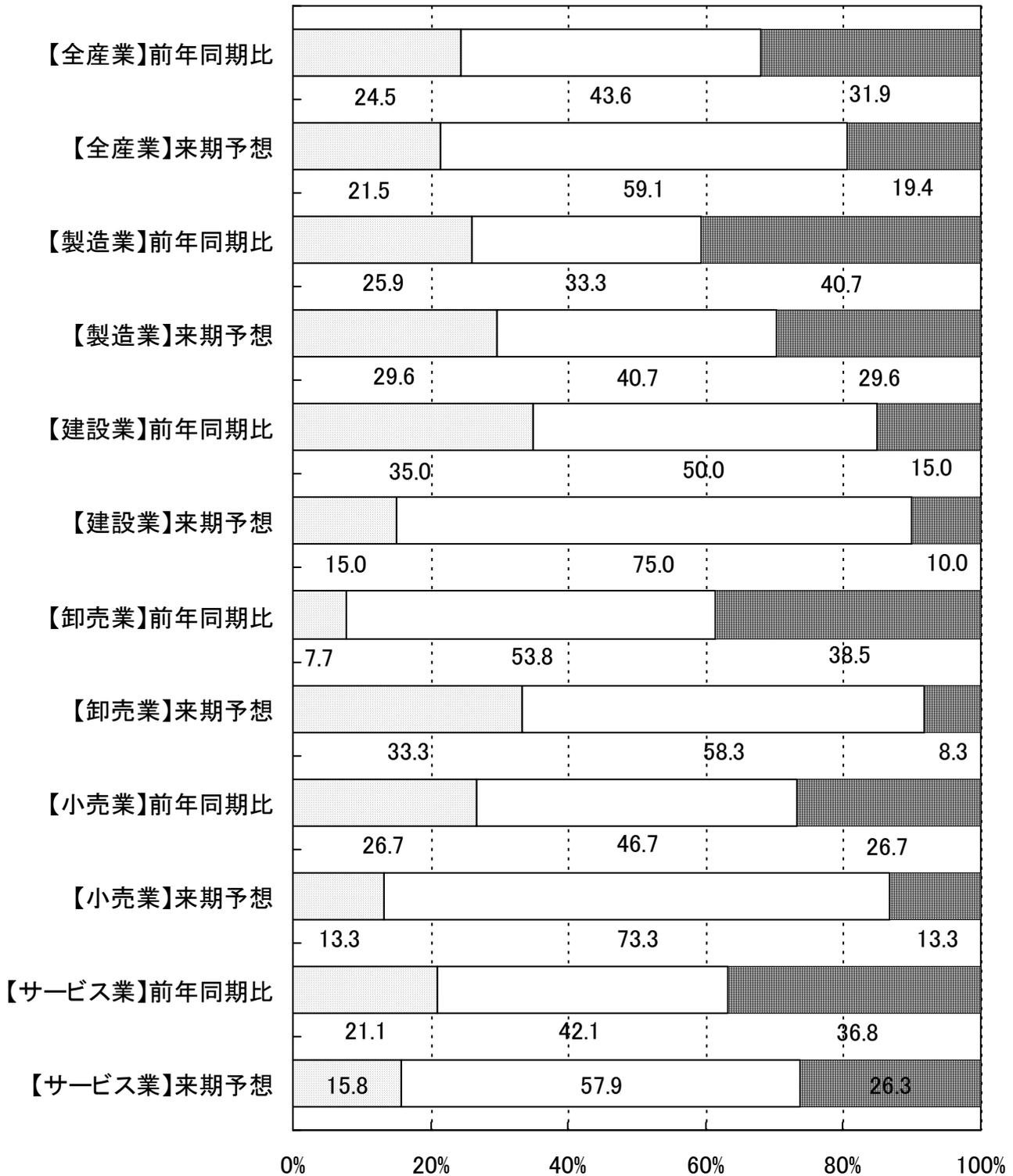
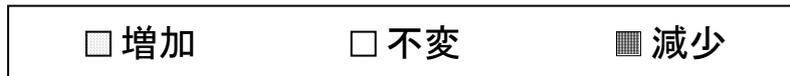
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 人件費高騰</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／売上減に伴う利益減</p> <p>その他 その他の需要の低迷</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 販売価格値上げ難／人件費高騰／人員不足／設備老朽化</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 その他の需要の低迷</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人件費高騰／人員不足</p> <p>3 位 その他の需要の低迷／設備老朽化</p> <p>その他 過当競争／販売価格値上げ難／人材不足</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減／設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／その他の需要の低迷／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>その他 人員不足</p>
サービス業	<p>1 位 人件費高騰</p> <p>2 位 その他の需要の低迷／人材不足</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫／設備老朽化</p> <p>その他 販売価格値上げ難／過当競争／売上減に伴う利益減／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2025年9月12日）

日本銀行静岡支店

（経済面）県内の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、緩やかに増加している。輸出と住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

(1) 個人消費(前回からの変化) → 物価上昇などの影響がみられるものの、緩やかに増加している。

百貨店・スーパー売上高は緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売額は緩やかに回復している。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は緩やかに回復している。新車登録台数・販売台数は持ち直している。旅館・ホテルの宿泊数は横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 公共投資(前回からの変化) → 高水準で推移している。

(公共工事請負金額前年比：25/7月6.2% → 25/8月▲1.9%)

(3) 設備投資(前回からの変化) → 製造業を中心に増加している。

(短観・設備投資額：24年度計画7.2% → 25度計画24.8%)

(4) 住宅投資(前回からの変化) → 弱含んでいる。

(新設住宅着工戸数前年比：25/6月▲3.2% → 25/7月1.5%)

(5) 輸出(前回からの変化) → 弱含んでいる。

(輸出額前年比：25/6月▲3.2% → 25/7月1.5% <速報値>)

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：25/5月▲3.2%⇒6月1.5%<速報値>)

自動車・同部品は横ばい圏内の動きとなっている。二輪車・同部品は弱含んでいる。食料品は横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は弱めの動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は回復している。紙・パルプは弱めの動きとなっている。楽器は弱めの動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：25/6月1.07倍⇒25/7月1.05倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数除く生鮮食品：前年比25/6月3.5%⇒25/7月3.0%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(25/8月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(17件<前年比：41.6%>)
負債総額(28億円<同：39.5%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：25/6月末+0.7%⇒25/7月末+0.4%)

(3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比：25/6月末1.6%⇒25/7月末1.9%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：25/6月1.534%⇒25/7月1.542%)

以 上